

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2013年1月10日

[テーマ] 公共事業 節度ある財政で

粉雪の舞うみなかみ町猿ヶ京温泉で年末年始を過ごした。この地域は谷川岳の南側、新潟県に隣接する県最北端に位置するため、県央と比べてかなり気温が低い。温泉だけではなく、冬のスキーや夏のラフティングなどのスポーツを楽しめる観光地であり、上毛かるたに詠まれる「沼田城下の」塩原太助や「天下の義人」茂左衛門など上州の偉人を輩出した土地柄でもある。

みなかみ町は2005年10月、月夜野町・水上町・新治村の3町村が合併して誕生したが、この地域では昭和の頃から人口減少が続いており、少子高齢化も全国と比べて早く進行している（15年の高齢人口比率・みなかみ町36.3%、全国26.8%）。

▼みなかみ町の人口 (人、%)

	2005年	2010年	2015年
人口	23,310	21,345	19,815
高齢人口割合	28.8	31.6	36.3

(出所) 総務省「国勢調査」

国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口（出生、死亡：中位）」

町では、人口動態の変化を踏まえて将来の税収減少や社会福祉費の増加を懸念し、07年3月、行政改革大綱及び集中改革プランを策定した。財政規模の縮減（15年度までの予算規模100億円以下）や職員の削減（職員数240人以下）などの具体的な目標を定めて、施策を着実に推進してきた。その結果、合併時に県内ワーストの部類だった財政状況は大きく改善している。

▼みなかみ町の財政指標 (%)

	2005年度（県内平均）	2010年度（県内平均）
経常収支比率	102.8 (93.4) < 県内ワースト1 >	85.6 (88.4)
実質公債費比率	20.7 (13.8) < 県内ワースト2 >	15.4 (10.3)

(出所) 総務省「地方公共団体の主要財政指標一覧」

町の取り組みで目を引くのは、行政運営の透明性確保に配慮している点だ。毎年度の予算編成に当たっては、将来ビジョンである総合計画を踏まえつつ、財源の制約を勘案して「行政経営方針」を策定し、取り組みの骨子を明示している。また、総合計画の進捗状況を客観的に評価するため、毎年、町民アンケートを実施し、結果を公表している。ただ、これほどの努力を払っていても、歳出や町債残高の削減ペースは当初想定よりも緩やかに止まっている。行財政改革が計画通りの成果を上げるには、息の長い取り組みが不可欠だ。

今年は、国の主導で、公共事業による景気浮揚策が打ち出される見込みだ。市民の安全、安心などに貢献する公共事業は積極的に推進すべきだろう。ただし、行政の側では、みなかみ町のように財源の制約を踏まえつつ、財政節度や透明性の高い運営を意識して、必要な事業を検討することが求められる。

塩原太助は、豪商でありながら清貧な生活を続け、私財を投じて今日の公共事業に当たる道路改修や治水事業などを行った。杉木茂左衛門は、藩主の放漫財政をみかねて命をかけて直訴を実行した。公共事業に関わる上州人は、2人の偉人の品格や精神をしっかり受け継いでいると信じていたい。

日本銀行前橋支店長
相良 雅幸